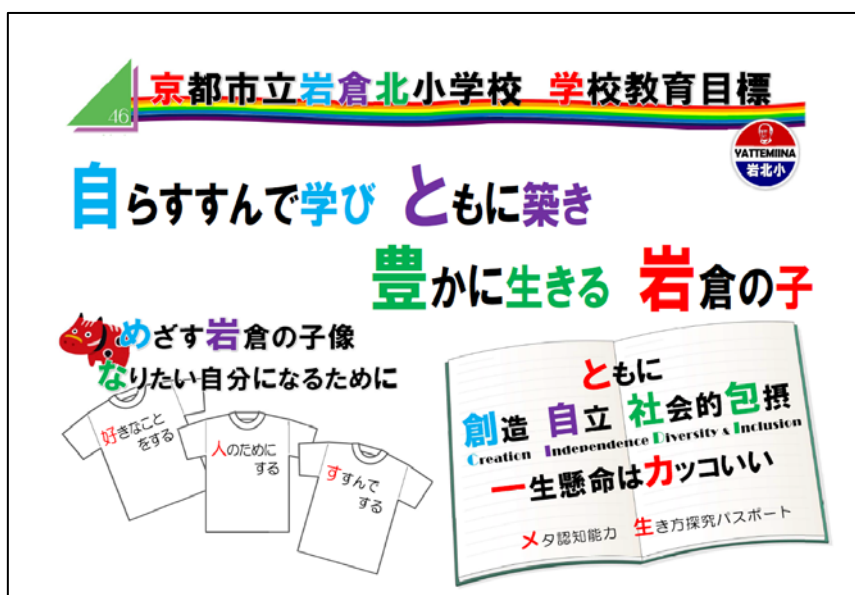


京都市立岩倉北小学校のグランドデザイン

1 「学校教育目標」のめざすもの



上の学校教育目標の構成は、めざす岩倉の子像『なりたい自分になるために「好きなことをする」「人のためにする」「すすんでする」』の実現という目的をもった学びをすすめるために、「創造・自立・社会的包摂」をキーワードとして、児童一人一人の成長（キャリア形成）を生き方探究パスポートで可視化し、メタ認知能力を高めていく学校の姿を示したものです。

(1) 「自らすすんで学び」

学校は児童と指導者がともに「学び合う」「高め合う」ところであり、一方通行の「教えるところ」「教わる場所」ではありません。また、指導者が持っている「答え」に導く授業は、岩倉北小学校が目指すものではありません。児童自らが問いを設定しその解決のために学ぶ「主体的・対話的で深い学びの実現」「能動的な学習者（アクティブラーナー）の育成」の実現をめざします。

(2) 「ともに築く」

自ら未来を切り拓く人材を育てることが学校の大きな役割です。対話的・協働的な学びは、その根幹となります。「ともに築く」姿勢・考え方は、誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会づくりをすすめる基盤となると考えています。

(3) 「豊かに生きる」

「豊かさ」とは何か、どのように「生きるか」、一人一人の「生き方」につながる「問い」を探究することは、自分自身の学びや生き方を振り返り「これから」を考える「メタ認知」能力を育てることにつながります。

(4)「岩倉の子」

学校教育目標は、教職員だけの目標ではありません。どのような子供を育てようとするのかを教職員、児童、地域・保護者等、岩倉北小学校に関わる全ての人と共有し、めざしたくなるものでなければならないと考えています。学校教育目標のイメージの共有を「岩倉の子」の言葉に託しました。

2 めざす岩倉の子像

「豊かに生きる」ためには、自らの「生き方」を見つめる視点が必要です。「視点」とは、「見方・考え方」であり、「問いかけ」でもあります。どのような「問いかけ」をもって、「生き方」を見つめていくのかを、「なりたい自分になるために」の目的を達成するための姿として、3つの言葉で示しました。

めざす岩倉の子像 なりたい自分になるために



(1)「好きなことをする」

能動的（自主的・主体的・自発的）な行動を指すものであり、「自らすすんで学ぶ」につながるものです。自らすすんで学ぶためには、受動ではなく能動的になることが大切です。内発的動機に基づく能動的（自主的・主体的・自発的）な活動の原動力を「好きなことをする」として示しました。誰しもが「好きなことをする」ことに、努力は惜しみません。

(2)「人のためにする」

誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る・豊かに生きるベースとなる考え方です。その基となるのは、自他の肯定と尊重とともに協働的な活動を大切にすることであり、「ともに築く」と歩調を同じくするものです。自分とともに、他者を理解し意識することが「メタ認知能力」の育成にもつながります。

(3)「すすんでする」

洛北中ブロックの合言葉「一生懸命はかっこいい」を行動化するための第一歩は、自ら動き出すことです。「主体的」「対話的」「能動的」のどの姿をとっても、第一歩は自分から「すすんでする」ことです。また、指導者として目に見える「動き出し」だけを評価するのではなく、考えようとする、考え始めること、結果が伴わな

ったこともすべてを「すすんでする」の評価として、児童を認める姿勢を大切にしたいです。

3 岩倉北小学校でつきたい力の3要素+生き方探究パスポート



(1)「自らの生き方を創造する力」をつける

本校では、「自らの生き方を創造する力」を育成する授業は、単に「夢を語る授業」や「将来について考える授業」と捉えるのではなく、「児童自身が今の自分（これまでの自分）を足場とし、「目的達成（なりたい自分）につなげることができる授業」であると考えています。

つまり、これからの自らの生き方を創造するには、これまでの自分を知る力（メタ認知能力）を育てることが大切であると捉えています。そのためには、自分をしっかり見つめ、自分のしたことが自分の目的に向かっていくか「振り返る力（メタ認知能力）」を土台にした授業づくりを、特別活動を要として各教科・領域の学びと結びつけるカリキュラム・マネジメントと、一人一人の学び（キャリア発達）を可視化することができるポートフォリオの研究をすすめることで実現していきます。

(2)「学びを活かし自立する力」をつける

本校の授業づくりは、授業者（指導する側）のもつ「答え」を児童が追求する授業ではないと定義しています。また、児童自身が追求する「答え」も1つに固定するものではありません。児童が自らの「生き方」の探究につながる「答え」を「問い」つづける姿勢を持続することが、求められる授業の姿であると考えています。ここでも、自らの「問い」を求め続けることが、自分の学びを振り返り、これからの自分について考える「メタ認知能力」を発揮する場面であると考えます。学び続ける目的を明確にもち、各教科での学びが、自らの「生き方」につながっているのかを常に問いかけることで、自立を促す授業づくりがすすみ、学びを活かし自立する力をつけることができます。

(3) 多様性と社会的包摂を理解する力をつける

多様性を理解するためには、「場づくり」が大切です。特別活動、特に学校行事は、「場づくり」として多くの要素を含んでいます。しかしながら、年間指導計画の中でも多くの時間を使う学校行事について指導者の理解が浅く、児童の目的意識が明確でないと、豊かな学びを得ることができません。多様性と社会的包摂を理解する場として、学校行事を可視化するために、「生き方探究パスポート」を活用し、非認知能力を育てていく実践的な場面として特別活動を位置づけています。

また、多様性を理解しただけでは、「人は人、自分は自分」という消極的な多様性の理解にとどまり、人間関係形成能力を伸ばすことはできません。多様性を理解し、一人一人の特性を活かそうとする場づくりが社会的包摂の理解を深めることにつながります。特に、学校行事、集団宿泊活動で設定する「場面と役割」は、自己理解と自己肯定感の醸成、多様性と社会的包摂の理解を体験的にすすめる場として有効であり、キャリア発達の具現化を図る場として積極的な活用をすすめます。

(4) 生き方探究パスポートの活用

今年度も学校行事を中核として、学級活動と各教科・領域とのカリキュラム・マネジメントをすすめ、生き方探究パスポートや行事ノート等を活用し非認知能力を可視化することにより、「学び」の意味と必然性を理解し、自らの「生き方」を問い続ける児童を育てていきます。

全市で取組がスタートする生き方探究パスポートについても、「どう書くのか」ではなく、児童のキャリア形成をはかるために、一人一人の自己実現とキャリア発達の記録をポートフォリオにまとめ可視化し、メタ認知能力を高めていきたい。

4 生徒指導の三機能を取り入れた学級づくり

(1) 「自己決定の場を与える」

「自己決定」とは、自分で決めて実行するということです。常に『相手』と『自分』の両者を中心にすえて行動するということです。岩倉北小学校では、身勝手な「自己決定」ではなく、周囲の人々を理解し大切にすること（**Inclusion**）を根拠にして自分の行動を捉えなおし（メタ認知）、判断し、行動できる場づくりをすすめます。

(2) 「自己存在感を与える」

「自己存在感」とは、自分は価値ある存在であるということを実感することです。教職員は、子ども一人一人の存在を大切に思って指導することが大切です。子どもの独自性や個別性を大切にした指導（**Empowerment** エンパワメント）をすすめます。

(3) 「共感的人間関係の育成」

「共感的人間関係」とは、相互に人間として無条件に尊重し合う態度で、ありのままに自分を語り、理解し合う人間関係をいう共感的人間関係は、教職員と子どもの関係だけでなく子ども同士の間でも大切にします。（**Diversity**）